

NJ 素流協 News

令和6年6月10日
第233号

令和6年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合 第21回通常総会開催

NJ素流協は5月27日、第21回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約120名が出席した。

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。



鈴木理事長挨拶

「お忙しい中、当組合総会にお越しくださり、ありがとうございます。令和5年度は、各工場の減産・納入

制限等で、丸太の流通は取扱量が減少したところであります。そんな中、当組合は再び取扱数量50万㎡台に回復してきました。ひとえに組合員の皆様のお助け、そして、納入先の皆様のご配慮のおかげだと深く感謝申し上げます。

さて、今年度の動向について皆様方から相談が結構あります。新設住宅着工戸数の動きで予測が左右されるというのは、戦後の流れをいまだに引きずっているからと私は考えています。しかしながら、本来は、日本は木の文化の国であります。住宅だけでなく、他の建築物も土木も日用品も、全て木でした。そういう意味では、ありとあらゆるところに国産材を使う動きを加速させていかなければならないのですが、鉄やアルミ、プラスチックへ流れてしまった業界については関係が切れてしまっています。もう一回、この関係を結

び直さなければならぬと思っています。加えて、外材を国産材に切り替えることが最も大事だと考えます。切り替えが進めば、着工戸数が多少減っても、国産材の利用量はアップします。今年度のポイントは、住宅メーカーの国産材比率の公表であります。こういった流れもあって、住宅メーカーの国産材利用は進むのではないかと、加えて、林野庁、国交省との木材利用協定により、中・大規模建築物の木造化も進むのではないかと予測しているところでございます。当組合の理念は、売り手よし、買い手よし、地域よし、丸太良しの四方よしであります。とりわけ最後の丸太良しというのは、せっかく育てた木を正当な評価で売ってあげたいという理念を持ってやっています。そして、もう一つ、ギブ・アンド・ギブです。常に提供し、困ったときに助けることだと思っています。さらに、組合員ファーストも当組合の大事な理念です。これらの理念を掲げて今年度も引き続き頑張っていきたいと思っております。」

2 感謝状贈呈者・表彰披露

令和5年度の当組合の取組みにおいて多大な協力と貢献をした組合員・取引先及び永年勤続者に対して、感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表しました。

【感謝状贈呈】

▽岩手県におけるアカマツ強度性能調査協力者

株式会社川井林業 代表取締役社長 澤田令様、横澤林業株式会社 代表取締役 横澤孝一様、有限会社丸大東北 農林 代表取締役 大粒来仁孝様、株式会社小野寺林業 代表取締役 小野寺徳治様、株式会社広瀬林業 代表取



アカマツ強度性能調査協力ありがとうございました！

締役 廣瀬誠様

▽林業用種子確保の取組み協力者

佐々木林業土木株式会社 代表取締役 佐々木一夫様、MG企画 代表 桑畑学様



林業用種子確保の取組み協力ありがとうございました！

【表彰披露】

▽農林水産大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞

有限会社下久保林業 代表取締役 下久保眞信様

【永年勤続者表彰】

10年にわたりノースジャパン素流協で勤務

高橋奈々、立花由美、野田秀一

3 来賓祝辞・祝電

来賓を代表して、東北森林管理局

局長 大政康史様(代理・次長 唐澤智様)、岩手県農林水産部 部長 佐藤法之様(代理・技監兼林務担当技監 工藤亘様)、岩手県森林・林業会議 理事長 中崎和久様(代理・事務局長 平野潤様)、日本合板工業組合連合会 会長 井上篤博様(代理・監事 林孝彦様) から御祝辞を頂きました。

また、株式会社商工組合中央金庫 盛岡支店支店長 御魚谷寿志様から御祝電を頂きました。

4 議事

議事に先立ち事務局から総会の成立が報告された(組合員226名中、本人出席52名、委任状による代理出席166名)。廣瀬誠氏が議長に選出され、議案の審議・承認が行われた。主な内容は次のとおり。

▽議案第1号「令和5年度事業報告書の件」

●令和5年度販売事業

①令和5年度の共同販売事業における素材取扱数量は表1のとおり、

また、東北森林管理局における委託販売はWEB入札により、47、

【表1】 小数点以下四捨五入 単位：㎡

区分	合板用素材	製材・集成材用素材、土木用素材他	計	バイオマス発電用素材(t)
材積	224,336	119,596	343,933	137,822
計画比	93%	68%	83%	102%
前年比	103%	96%	101%	131%

共同販売による取扱数量は、バイオマス素材を含め55万㎡の計画に対して、48万1,754㎡となり、計画比88%となった。

603㎡を販売し、N J素流協の令和5年度の取扱総数量は、52万9,358㎡(前年比111%)となった。

②財務基盤の強化及び効率性の向上 消費税インボイス制度の導入に合わせた販売ソフトの改修を行った。

また、外出先等での組合員及び販売先へ柔軟に対応するため、モバイルツールを駆使し弾力的な業務体制の維持に努めた。

●森林再生に関する事業

①再造林基金事業の推進

「岩手県森林再生機構」の構成団体として、機構による再造林の推進に取り組んだ。共同販売事業等に係る協力金については、原木出荷者(素材生産等の組合員)及び原木購入者(販売先)から徴収するとともに、当組合(原木流通業者)の協力金を岩手県森林再生基金に積み立てた(令和5年度協力金 計1千70万4千401円)。

また、新規加入組合員に再生基金の紹介を行い基金の周知に努めた。

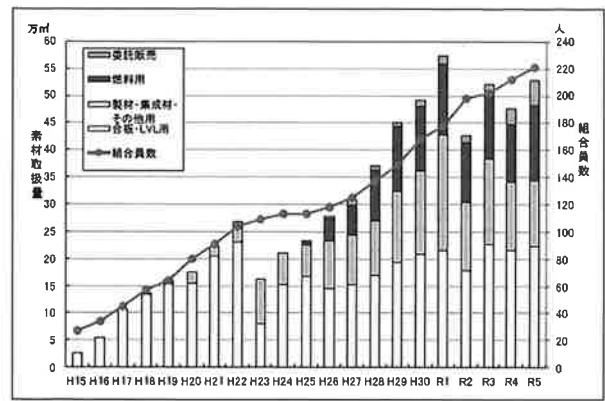


図 素材取扱数量と組合員数の推移



会場の様子

「青い森づくり推進機構」に木材流通業者として協力金を拠出した(令和5年度協力金 47万7千94円)。

②低コスト再造林の促進

組合員による再造林を促進するため、組合員が行う低コスト再造林経費の一部を助成する「再造林促進奨励事業」を実施した。令和5年度は、組合員4名が行った再造林面積10.35haのうち4.00ha(1組合員1.00haが上限)について助成金26万円を交付した。

③海岸防災林再生活動の実施

仙台森林管理署との「社会貢献の

森」協定のもと、宮城県名取市の海岸防災林において、『ノースジャパン100年復興の森』と名付けた海岸防災林の再生活動を実施した。

令和5年度は定期巡視および清掃に加え、9月に組合員及び役職員計27名が参加して、裾枝払い、つる切り等を行った。

●技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

①研修会等の実施

- ・林業経営講座を2回、林業講演会を2回、茨城県で現地視察研修を行った。
- ・組合員の役職員、従業員が自己の技術や知識を向上させる目的で参加した研修会等について、経費の一部を助成する自己研鑽研修助成金について、令和5年度は13件の研修に対して助成し、助成金47万円を交付した。

②技術指導

- ・合法木材等供給事業者認定の新規申請者を対象に、林野庁ガイドライ

ンの適切な運用、クリーンウッド法の概要等に関する研修会を実施し、4事業者を認定した。また、証明に係る書類管理及び分別管理事務に関する訪問指導を行った。

- ・岩手県産材認証協議会登録者が取り扱う材について、証明を行うとともに、前年度の証明実績を取りまとめて、岩手県産材認証推進協議会へ報告した。(令和4年度証明実績 7,707㎡)
- ・いわて林業アカデミー研修生の就業体験研修では、令和5年度は11組合員が就業体験研修を受け入れた。
- ・林業用種子(カラマツ)確保の取組として、カラマツ種子不足の解消に寄与するため、組合員の協力のもと、着果木を伐倒し、球果採取を行った。

③調査研究(課題解決の取り組み)

【NJ素流協青年部会関連】

- ・第3回げんき森林(モリ)モリフェスティバルを開催し、岩手県内外から500名が来場
- ・福島県、茨城県で青年部視察研修を行った。
- ・第51回全国林業後継者大会(第73回全国植樹祭関連行事)の実行委員

会に参画し、岩手県及び関係団体等と連携し運営を行った。

【東北地区原木トラック運送協議会との連携】

東北地区原木トラック運送協議会からの事務委託により、東北森林管理局長あての要望書提出や、東北森林管理局林道プロジェクトとの現地検討会等各種事業を行った。

詳しくは、トピックスの「東北地区原木トラック運送協議会 第8回通常総会開催」の記事をご覧ください。

●受託・協定等に関する事業

①国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会（林野庁委託事業）

②災害時における応急対策業務に関する協定（岩手県知事と締結、76組合員の名簿を提出）

③岩手県産人工林アカマツ材の強度性能の調査・検証

④林野庁令和5年度「新しい林業に向けた林業経営育成対策のうち経営モデル実証事業」岩手地域協議会（委員として参画）

●創立20周年記念事業

令和5年5月23日、第20回通常総会後に記念式典を開催した。

また、別途、記念品として岩手県におけるカラマツ造林の創成期に植栽された「岩手山120年生カラマツ」を材料とした看板を作製し、組合員及び販売先に贈った

●「第73回全国植樹祭」について2023に関する事業

令和5年6月4日、「第73回全国植樹祭」に組合員及び職員が実施本部員ボランティアとして協力し、弁当配布や植樹指導を行った。

また、会場に設置されたおもしろい広場にブースを出展し、組合員及び販売先等から提供いただいた岩手県産材を利用した製品を展示しPRした（その後、製品をいわて林業アカデミー及び山形県立農林大学校に寄贈）。

▽議案第2号「令和6年度事業計画書の件」

・令和6年度の共同販売計画量は表2のとおり。

表2 令和6年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	240,000 m ³
製材・集成材用素材・その他	170,000 m ³
計	410,000 m ³
パイオマスタ 発電用素材	140,000 t

・東北森林管理局等委託販売業務において素材4万9000m³の取り扱いを見込んでいる。

・再造林基金事業等、森林再生に関する事業に引き続き取り組む。

・組合員の林業技術の向上と経営改善を図るため、引き続き各種研修を

行う。

・原木トラック運送の効率化対策等課題解決の取り組みを行う。

・各種情報の提供、受託・協定等に関する事業に引き続き取り組む。

▽議案第3号「令和6年度手数料率決定の件」

共同販売の手数料については、販売代金の3・25%以内（消費税別）とする。

※今年度の手数料率は2・5%とする。

▽議案第8号「役員改選の件」

新役員13名は表3のとおり。

表3 新役員名簿

（二役以外の氏名は五十音順、敬称略）

役職名	氏名	所属団体
理事長	鈴木 信哉	ノースジャパン素材流通協同組合
副理事長	横澤 孝一	横澤林業株式会社
理事	大粒 来仁孝	有限会社丸大東北農林
理事	小林 拓夫	株式会社昭林
理事	島崎 祐男	株式会社石川組
理事	杉本 嘉一	杉本林業株式会社
理事	角掛 勇吉	岩手県国有林材生産協同組合連合会
理事	坪 晃	青森県国有林材生産協同組合
理事	野 邑 計	有限会社道又林業
理事	松田 光治	有限会社三栄興業
理事	山田 一宝	有限会社山一木材
監事	小野寺 徳治	株式会社小野寺林業
監事	谷地 譲	有限会社谷地林業

トピックス

東北地区原木トラック 運送協議会 第8回通常総会開催

令和6年5月27日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで、東北地区原木トラック運送協議会の第8回通常総会が開催されました。

開会にあたり、松田光治会長より「皆様方から多くのお力添えもあり、当協議会も大分周知されてきたように思います。特に「東北森林管理局への要望活動」の成果が表れ、トラックの購入や作業クレーン等の購入補助金が適用されております。林野庁・東北森林管理局様におかれましては、ご尽力賜りまして感謝申し上げます。また、当協議会では、林野庁・木材加工工場を含む林業関係団体等に要望書や業務改善の申し入れ等を行って参りました。このような活動を行う事で、労働時間の短縮、労働環境の改善につながっていくも

のであり、今後も継続して行かなければならないと思っております。」と挨拶がありました。

続いて、来賓のノースジャパンス材流通協同組合鈴木理事長より、「原木トラック協議会というのがなぜ重要か。江戸時代までは、筏師(イカダシ)・馬搬(バハン)で出材していましたが。その後、森林鉄道が入りトラック輸送が始まると同時に外材の輸入期が到来します。日本の港から工場に丸太を運ぶようになり、山から丸太を運ぶことが無くなりました。今やつと国産材時代になって、山から丸太を運ぶという仕事が木材産業にとつては極めて重要です。今、福島を除いた東北5県の伐採量は、ざっくり500万m³です。25m³/台で割ると20万回、これを200日で割ると1日千台のトラックが走らないといけない。1社で10台保有しても、100社がないと、実は東北の丸太が山から出せないという事になります。極めて重要な役割を担っています。我々も努力して参りますので皆様方のご協力もお願いしたい。」と祝

辞を頂きました。

この後、松田会長を議長とし、議事に入り、議案第1号(令和5年度事業報告)では、林野庁・東北森林管理局への要望活動・管理局職員との合同現地検討会の開催、視察研修等を報告し収支決算と合わせて承認され、続いて、第2号議案(令和6年度事業計画)について、林野庁・東北森林管理局・林業関係団体への要望活動、林道の維持管理の取組等の計画が予算案とともに承認されました。



原木トラック運送協議会 総会の様子

マッチング事例紹介
大量の林地残材が
チップに!!

NJ素流協は林地残材の有効利用を目的として、素材生産業者様と林地残材利用者様のマッチングを行いました。

この事業では、林地残材の活用を希望する組合員様のご協力の下、林地残材を道路脇に集め、移动式チップパーでその場でチップ化し、発電所へ納入を開始しました。その結果、2か所のバイオマス発電所に、合計360tのチップを納めました。事業は、今秋まで継続する見込みです。林地残材利用のご希望がありましたら、営業企画部まで気軽にお問い合わせください。

全素協第50回総会に出席

5月23日、全国素材生産業協同組合連合会の第50回総会が東京都において開催され、当組合から一条参加が出席しました。

令和5年度事業活動報告と収支、

令和6年度事業計画と収支予算がそれぞれ承認され、役員改選が行われました。

この中で、「花粉の少ない森林への転換促進支援」の実施について情報提供がありました。

花粉症対策において、森林所有者から林業経営体への伐採・植替え等の森林管理の委託に対する働きかけを行い、対象となる森林の森林管理の委託を受け、森林経営計画の策定を行う林業経営体等を全国レベル及び地域レベルにおいて、とりまとめを行うとする事業参加者を対象に、一般社団法人日本森林技術協会による支援が始まっています。

支援を受けるためには3つの要件があり、取りまとめを行う事業としてNJ素流協も参加する際は皆さんにお知らせします。

詳しくは、日本森林技術協会のホームページをご覧ください。

(一社)日本森林技術協会
<https://www.jafta.or.jp/contents/home/>



お知らせ

注意
国其林WEB入札での注意点
「入力確定」を忘れずに!!

ノースジャパン素流協
 通協同組合では、WEBにて国其林材の委託入札を行っております。

入札に参加する際は、入札単価を入力し、最後に「入力確定」ボタンをクリックしてください! 「入力」が確定しました」のメッセージが出ますので必ずご確認ください。



青年部会『げんき森林モリフェスティバル』
今年も開催!

ノースジャパン素流協同組

合青年部会が主催する、いわての森林づくり県民税を活用した児童・生徒向けの森林・林業普及啓発イベント「第4回げんき森林(モリ)モリフェスティバル」の開催が決定しました。

当日は、ハーベスタ等の高性能林業機械による作業実演、木のぼりや丸太切り等の体験、林業機械メーカー等による展示等の企画を有意して皆様のご来場をお待ちしております。

なお、イベントの詳細についてはNJ素流協ホームページに掲載しております。

【日時】令和6年7月28日(日)
 10時00分～15時30分
 【会場】岩手県民の森 (八幡平市)

令和6年度
地区別組合員会議を
開催します

本年度の地区別組合員会議を別表のとおり開催します。
 詳細は別途お送りしている案内

文書をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

日時	市町村	会場
6月20日(木) 13:00～	八幡平市	八幡平市立荒屋コミュニティセンター(体育館)
6月28日(金) 13:00～	久慈市	久慈市文化会館 アンパーホール(第1～3会議室)
7月2日(火) 13:00～	住田町	住田町農林会館(多目的ホール)
7月5日(金) 13:00～	七戸町	七戸中央公民館(第1・2研修室)
7月9日(火) 13:00～	大館市	大館市北地区コミュニティセンター(研修室)
7月11日(木) 13:00～	大崎市	鳴子公民館(ホール)

虫害期に入りました
「伐採後2週間以内に納入」
を心がけてください!!

新卒採用を行う予定です
 NJ素流協では、初めて新卒採用を行う予定です。詳しい内容が決まりましたら、また改めて掲載いたします

ちよつと気になる木の話

あまり重視されない 林業事業体

— 林野庁でだけが
どう面倒みるのか? —

国産材時代を迎えて、素材生産業は極めて中心で重要な業界である。再造林も必要で、造林・森林整備業界も重要である。もちろん、両方の事業を行う林業事業体の名称でも、問題は同一である。

かつて的林野庁の組織を思い返すと国有林関係は、管理部・業務部で6課あり、民有林関係は、整備部に計画課、造林課、林道課、治山課、研究普及課と補助金行政中心とわかる。林政部には、林政課、企画課、森林組合課、林産課であり、森林組合課を除けば補助金行政とは縁遠い感じだった。森林組合課は、林業構造改善事業がメインだったが、森林組合は補助金行政の対象で、沢山つきこまれた。一方、林産課には、加工班、流通班、住宅資材班、需給班、貿易班等があり、膨大な木材関連団体を抱えていたが、素材生産業の団体も小さく、当該業界の話はほとんどなかったといえる。林野庁は公共事業と国有林経営がメインだったの

である。製材工場等の設備投資補助金も、森林組合は1/2、木材業界は、協同組合方式で1/3だった。

こうした中、乾燥材総合対策事業で初めて木材業界にも1/2補助金を認めてもらったことは私の行政人生としては忘れられない出来事であった。こうした中、大規模組織改編が生じて、H13年に森林組合課から経営課に名称を変更した。木材課になった頃から、新流通・新生産と木材業界への補助金も差別なく出されるようになった。この頃、素材生産業は、どの課所管か分かるように、木材課(後の木材産業課)の方に素材生産の名称を付けた係長名称をつけて、所管を明らかにしたのである。国有林の全国国有林造林生産業連絡協議会は、発注元国有林のグループであり、民有林の素材生産業の団体とは全く異なるので念のため。この時、民有林の造林事業体の所管が不明確なので、整備課に何らかの名称つけたらとのアドバイスも行った。その後、都道府県への基金方式の補助金行政も始まり、素材生産業への支援も高性能林業機械導入等大きく前進し、森林組合との差もなくなったといえる。

ここきて、経営課に林業労働・経営対策室という名称の室ができて、林業事業体育成班ができた。一方、木材産業課には素材生産推進官の名称のポストも併記された時期もある。「うくん」である。しかしながら、素材生産業は森林組合を除くとほぼ民間企業であり、その指導は産業行政である。労働安全問題とかは、林災防で、木材業界も素材生産業界も一つであり疑問は生じない。

産業行政への意見・提言等は本当にそれが担うかである。

実は、現在の素材生産事業体の数は、製材業よりはるかに多い数である。従業員数を加えれば、林業関係者のかなりのウェイトを占める状態にある。農業経営や漁業経営とは全く異なる。農作業・漁業繁殖作業の収穫作業会社ともいえる。クリーンウッド法、合法木材、バイオマス証明、伐採証明、免稅軽油手続き等林野庁の重要施策の当事者でもある。でも、何か、あまり重要視されないのは何故なんだろうか？

それには、完全に日本国中の業界実態が把握されておらず、全素協も真の全国団体を形成していないためだと思っ

る。都道府県単位の組織のないところが過

半である。有力メンバーが集まっている秋田、岩手とかみれば、100社以上は堅いと思われる(自伐林家、下請専門等の会社は加盟していない)。とすれば、47都道府県で5千社ぐらいいはいるかもである。この数が集まれば、業界の認識は、かなり向上すると考えられる。

代表的な政策である「緑の雇用」の就業受け皿でもあり、各地で新設展開している「林業大学校・アカデミー」の就業受け皿でもある。地方創生・山村活性化の目玉なのである。

もう一回林野庁で素材生産業を本当に、だれが面倒みるのか注目である。

さらに、最近、各事業体から飛び出して造林業を起業する若者も増えている(最初は、機械が高額で素材生産業に参入できないのも理由の一つ)こうした者も所属・相談できる組織も重要である。

私が、木材産業課長時代、長官からは国産材製材協会のように、トップランナーだけで新団体をとの話もあったが断った。全国のありとあらゆる違う人たちが集結することが、国産材時代に向かうイメージだったのである。

国産材時代のスピードアップには、素材生産事業体の活性化がどうしても…である!!

令和6年5月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	12,173	98.3	119.2	11,362	101.0	126.9	23,535	99.6	122.8
カラマツ	5,430	107.6	121.7	350	326.1	1,915.8	5,779	112.1	129.0
アカマツ	1,704	52.1	132.3	107	18.6	*	1,811	47.1	140.6
その他	0	*	*	98	65.7	51.2	98	65.7	51.2
合計	19,306	93.3	121.0	11,916	98.7	130.1	31,222	95.3	124.3

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,820	92.9	88.6
カラマツ	3,001	98.9	91.3
アカマツ	1,520	63.4	43.6
その他	468	77.1	443.8
合計	8,808	86.8	78.7

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	24,552	22,608	47,160	7,934
カラマツ	10,476	457	10,933	6,035
アカマツ	4,972	680	5,652	3,918
その他	0	246	246	1,074
合計	40,001	23,992	63,992	18,962
目標達成率 (%)	16.7	13.7	15.4	14.0
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和6年5月の需給動向】

- カラマツは合板工場の引き合いも強く、比較的納入しやすい樹種であったが生産調整(減産)は継続しており、原木在庫も増加傾向のため今後は納入制限が予測される。
- 製材・集成材用スギ原木は不足感もあり納入可能であるがこれからの時期は虫害が懸念される。

耳からウロコ

大学林学科の求人先

— 現在は全くないかも? —

大学の林学科を昭和56年に卒業した。就職したのは3人だけで、1人は永久就職で、1人は大手製紙に就職したが、2年で退職して帯広畜産大学に再就職した。結果、一時期、就職者は1人だった。みな大学院進学だった。その後、大学・研究所・高校の教職、国・地方公務員、JICA等民間就職は1人もいなかった。この当時の求人先が壁板に貼られていたが、大手商社、製紙工場等もあったが意外な求人もあった。

「ヨシモトポール」?何だろうと見ると、電柱業者さんだった。当時はまだ木製電柱もニーズがあった。今でも狭い道路の観光地や離島等には木製電柱が必要だという。国立公園内には、鉄ポールに茶色の木の色を塗っているが、木製に戻したらと今でも思っている。この会社の発祥は、現在、当組合員である、岩手にも社有林・製材工場を持つ「吉本」さんである。

次に、「国鉄」?電柱と同じく枕木か?こちらは純粹に山林管理である。内容を見ると、線路の両側にある防風林の育成・維持管理とある。こちらは林学だよね。当時はドイツトウヒが沢山植えられてい

た。ドイツトウヒを伐採して、再造林も行われているが、後に伐採したドイツトウヒを利用して大宮駅の駅ナカ店舗に使われたと記憶している。確か、山形県最上地方のドイツトウヒだった気がするが...

しかし、書きたいのはこれではない。和歌山、宮崎の大規模森林所有者求人である。山林経営・林業経営だから、林学科への求人は当然かな。しかし、その求人には、当家の山林経営を担ってくれる人材募集しますと。ところが、その後2件とも同じことが書かれている。適齢期の娘がいます。「うくん、これは婿養子募集か」。しかし、同級生も同じ話題に弾んだ。「それなら求人票に写真貼って欲しいね」。まあ、欲しい人材を求めた真剣な求人である。当時、和歌山に研修に行ったが、夜のお酒は、ホテル浦島から届いていたが、林学OBで山林経営者だった。何となく理解できた。

しかし、就職で一番の記憶は、オーバードクターが結構いる中、廊下で、教授にオーバードクターの一人が呼び止められていた。「お前何してんだ!今日から試験場勤務だぞ」「えっ聞いてませんが」「いから、早く行け!」うくん、試験場だから研究者の選考採用かと思っただが、本人が知らないケースとは。今なら無いよね。元に戻って、このような求人は現在でもあるかな?